

日本産業衛生学会

関東地方会ニュース

(題字 高田 易 筆)

発行所／日本産業衛生学会関東地方事務局・〒105-8461 東京都港区西新橋 3-25-8

東京慈恵会医科大学環境保健医学講座内・TEL (03) 3433-1111 内 2266・FAX (03) 5472-7526・発行責任者／清水 英佑



化学物質のコンテナへの詰め替え作業風景
環境中への漏洩防止には
細心の注意を払い、作業者は
防護装備に身を固めて
作業に臨む。

(写真提供 桁元武)

産業保健スタッフと生涯学習

加藤登紀子（東京女子医科大学看護学部）



産業保健活動は、常に進行である社会経済活動に携わる人々を支援するものなので、①社会的条件の変化とともに活動内容を新たにしていくこと、②健全な産業活動と直結させるため

には社員や事業主が主役で、我々はこの方々を援助する者であること、などにこだわる必要がある。そのため産業保健スタッフは初心者もエキスパートも常に研鑽が求められ、そのことが醍醐味でもある分野であろう。

産業保健スタッフのための継続教育は各部会や学会大会などにおいて進められているが、これまでではスタッフ自身の産業保健についての知識や技

術を広げたり深めたりするのが多かったようだ。これからは労働安全衛生マネジメントシステムにもみるように、主役である社員と事業主に助言し、積極的に活動してもらうように働きかけるという、提案、調整、相互啓発などができる力が求められていると思われる。

産業看護分野では、卒後教育の一環として、「産業看護専門看護師教育課程」(CNS)の開設が平成16年度より日本看護系大学協議会より東京女子医科大学大学院看護学研究科に認められた。2年間のコースで、産業看護に関する実践・研究・教育・相談・調整・倫理的調整の各能力の研鑽を目指し、修士の学位が取得できるものである。産業看護職の生涯学習の一端として、ともに学びを深めたく、皆さんのご活用をお願いしたい。

第 223 回例会報告



三好裕司（明治安田生命）

第 223 回例会は、2003 年 12 月 20 日（土）13 時から 17 時 15 分まで、東京大学医学部鉄門記念講堂にて開催されました。参加者は会員 191 名、非会員 80 名、計 271 名でした。

現在は社会、経済、ならびに産業構造、労働衛生分野において激動の時代にありますので、「激動期の産業保健」という全体テーマを設けました。激動の時代にあって、労働負荷が強まり、過重労働による身体的影響、精神的影響を生じ、脳・心臓疾患、過労死、過労自殺に至るケースも想定しました。わが国では生活習慣病といわれる状態も労働習慣に起因すると思われる場合が少なくなく、産業保健現場での対応の現状、さらに、これから産業保健はどのような方向性を目指すべきかという話の流れで、以下の 4 つの教育講演が行なわれました。

- 1) 「過重労働による健康障害防止対策」
演者・和田攻（埼玉産業保健推進センター所長）
座長・三好裕司（明治安田生命）
- 2) 「過労自殺とその対策」
演者・高橋祥友（防衛医大防衛医学研究センター行動科学部教授）
座長・川名一夫（萬有製薬）
- 3) 「激動期の産業医と産業保健」
演者・埋忠洋一（UFJ 銀行東京本部健康管理センター所長）
座長・小林廉毅（東京大学・医・公衆衛生学教授）
- 4) 「元気に働くための基本」
演者・ジアン ドゥーソップ（産業医大産業生態科学研究所産業保健経済学助教授）
座長・荒木葉子（NTT 東日本）



第 224 回例会報告



伊藤昭好（労研）

第 224 回例会は、2004 年 2 月 21 日（土）川崎市国際交流センターで神奈川県医師会共催のもと開催された。好天に恵まれ、会員 137 名、非会員 19 名の合計 156 名の参加を得て、13 時から開始した。「産業保健におけるマネジメントシステム構築をめざして」をメインテーマに、清水英佑地方会長の挨拶に続き、教育講演「企業からみた産業保健専門職への期待」（演者：吉良一樹（三菱化学人事部健康開発センター）、司会：前原直樹（労働科学研究所））とシンポジウム「自主対応、自立をめざした産業保健活動」が行われた。後段のシンポジストは森晃爾（産業医大）「自律的産業保健活動の考え方」、荒木郁乃（エクソンモービル医務産業衛生部）「OSH-MS 導入企業で進める産業保健活動」、伊藤昭好（労働科学研究所）「自主対応を促進する労働衛生教育の進め方」、木田哲二（労働衛生コンサルタント事務所プライム）「中小事業場で自主対応を進めるポイント」の 4 氏で、各演者が約 20 分ずつ報告した後、フロアを交えて活発に討議が行われた（司会：酒井一博（労働科学研究所））。教育講演、シンポジウムとも、現場の自主的な産業保健活動を支援するために必要となる産業保健専門職の役割を明確にし、今後は意識と活動の変革が求められていることを提起する内容であり、盛会のうちに 17 時前に閉会した。



第225回例会報告

照屋浩司（杏林大学保健学部公衆衛生学）



第225回例会は、東京都医師会、三鷹市医師会共催のもと、2004年5月22日(土)に杏林大学医学部大学院講堂(東京都三鷹市)にて開催された。当時は12時30分より平成16年度関東地方会総会が

執り行われ、例会は13時10分より開始された。清水英佑地方会長の開会挨拶の後、角田透座長(杏林大学医学部衛生学公衆衛生学教授)の進行にて、宮地信雄講師(三鷹労働基準監督署長)に「最近の労働衛生関連の法令改正」について、周辺領域における注意すべき事項も含めて、金井好克講師(杏林大学医学部薬理学教授)に「オーダーメイドの健康管理－生活習慣病予防と分子遺伝学－」についてのご講演をいただいた。休憩をはさみ、後半は高島豊座長(杏林大学医学部衛生学公衆衛生学教授)の進行にて、小風暁講師(杏林大学医学部衛生学公衆衛生学講師)に「オーダーメイドの健康管理－産業・疫学分野におけるエビデンスー」、久保明講師(高輪メディカルクリニック院長)に「オーダーメイドの健康管理－健康増進の実践指導への活用ー」についてそれぞれご講演をいただいた。全体テーマとした「オーダーメイドの健康管理」は、将来的には産業保健の領域にも取り入れられていくと思われ、基礎－社会医学－臨床の各分野におけるこの領域の第一人者からの講演は興味深いものであり、時間に制約はあったものの講演後には活発な討議もなされた。会員109名、非会員82名の参加を得て、盛会のうちに17時30分に閉会した。



関東産業看護部会 第4回産業保健研修会報告

庄司幸子(日立ディスプレイズ)



第4回産業保健研修会は2004年1月25日(日)と2月21日(土)に大田区産業プラザにおいて開催しました。講師は日立健康管理センタの臨床心理士で国際TA協会の有資格会員でもある小川邦治氏をお迎えし

てTAの基礎講義であるTA101を開催いたしました。

TA(Transaction Analysis、交流分析)は、アメリカの精神科医エリック・バーンによって創始された一つのパーソナリティ理論で、個人が成長し変化するためのシステムティックな心理療法の一つです。現在は医療・心理臨床分野だけではなく、教育分野や産業・組織分野などの様々な分野で応用されていることはご存知の方が多いと思います。



また、エゴグラムを通じてTAをご存知の方もいると思いますが、TAの背景には、「自我状態の構造・機能分析、やりとり分析、ゲーム分析、脚本分析、TAの持つ哲学・人生観、ストロークと値引き等」があって、それらを簡単なエクササイズを交えながら、12時間の講義を2日間にわたって体系的に学ぶことが出来ました。その結果、参加者の一人一人が自分自身や人生に対する理解を深めることができたり、業務で感じている様々な疑問を解決するヒントを得ることができ、有意義な時間を過ごすことが出来ました。TAは今後産業保健分野においても重要な理論になってくるのではないかと感じました。

関東産業衛生技術部会 第 5 回研修会報告

原 邦夫 (労研)



2004 年 2 月 6 日、順天堂大学で、関東産業衛生技術部会第 5 回研修会および第 4 回産衛学会産業衛生技術部会・教育研修会が開催された。講師は、企業の社会的責任(SR)・技術者倫理の問題に早くから

取り組んでいる坂清次氏(三菱総研・協力研究員、労働科学研究所・協力研究員)であった。参加者は 10 数人とこじんまりとしたものであったが、変動する企業社会の中で社会的役割を果たすべき産業衛生学会員への刺激的な内容であった。

まず、40 年間の三菱化学時代のプラント製造・運転の経験から、生産性の高いプラントほど安全衛生もしっかりとしている例について、サウジアラビアのプラントでの経験を紹介された。次に、最近の日本の企業を取り巻く社会状況について触れた。最近は “One-strike-out” の状況になっている。東海村の JC0 の事故、雪印の事件、などでは安全衛生問題で会社が一発で潰れている。

とはいっても、企業は一連の不祥事を受けて「企業倫理」の確立の方向を打ち出している。企業を取り巻く状況も変化している。消費者行動の変化、投資家からの要求の変化(たとえば SRI)、あるいは内部告発の法制化の動き。企業は、既に大学や学会の技術者倫理に先んじている。辛うじて工学系の学会、例えば日本機械学会倫理規定では、「人類の安全、健康、福祉の向上・増進の保全のために、その専門的能力・技芸を最大限に發揮することを希求する」としている。具体的に倫理とは、安全、健康、環境に着目することであることが唱われはじめている。産衛学会はいかがであろうか。社会的責任を問われた企業は、産衛学会が対応を損ねると、外国の学会にこの時流の社会的責任・技術者倫理の問題の相談を持ちかけるようになるかもしれない。



理事会報告より

清水英佑 (慈恵医大)

開催日：平成 16 年 2 月 28 日および 6 月 12 日

1. 平成 15 年度事業報告・収支決算、平成 16 年度事業計画・収支予算の各案が承認された。新定款により本期会計年度は平成 15 年 4 月 1 日から平成 16 年 2 月 29 日までとなった。
2. 平成 16 年度総会は新定款により代議員による。なお、代議員は役員ではない。
3. 厚生労働省より当学会に対して改善報告書が出されたのに対して、理事長から回答が出された。
4. 代議員選任規程、選挙管理委員会に関する細則、地方会役員選出規程が検討され承認された。尚、本年 10 月 22 日までに代議員選出結果を中央選管に届けることになった。
5. 中央選挙管理委員会委員は、浜口伝博(委員長)・藤田雄三・植木寿満枝・吉田勉・田中茂・角田透の各氏となった。
6. 和文誌も英文誌同様にホームページに載せる方向で検討する。
7. 労災保険民営化について問題点を学会として広く知らせることにした。即ち、現行労災保険は、事業者と労働者の双方を労災のリスクから保護する社会保障制度の一環として政府管掌保険という形態で運用されてきたが、民営化されることで様々な支障を来すことが予想される。
8. 第 79 回日本産業衛生学会(平成 18 年)開催地は、東北地方会に依頼することで了承された。
9. 第 15 回産業医・産業看護全国協議会(平成 17 年)は、広島で開催する。
10. 卒後臨床研修の「地域保健・医療」について、産業保健指導者の研修が必要であることから、本年 8 月 16~18 日に慈恵医大で第 1 回産業保健指導医講習会を開催する。
11. 産業看護部会の幹事が、上田進子氏から鯨島真理子氏に交代した。
12. 第 14 回産業医・産業看護全国協議会は、本年 10 月 29 日から 30 日まで大阪で開催する。
13. 倫理委員会委員長に二塚信氏が、副委員長に堀江正知氏が選出された。
14. 振動障害研究会世話人が原田規章氏に交代した。

15. 労働衛生関連法制度検討委員会は五十嵐千代氏が新任となった。
16. 英文名が次のように承認された。

産業医部会 : (Bureau of Occupational Physicians)
産業看護部会 : (Bureau of Occupational Health Nursing)

産業衛生技術部会 : (Bureau of Occupational Hygiene Ergonomics)

産業医・産業看護全国協議会 : (JSOH National Joint Conference of Occupational Physicians and Occupational Health Nursing)

産業衛生技術部会大会 : (JSOH National Joint Conference of Occupational Hygiene Ergonomics)

幹事会報告より

鈴木勇司 (慈恵医大)

1. 八上享司幹事、野上寛一前幹事が逝去された。
2. 田中茂氏、山崎博氏、工藤光弘氏が新幹事として承認された。
3. 第 78 回日本産業衛生学会は平成 17 年 4 月 20 日(水)-23 日(土)東京プリンスホテル及び東京慈恵会医科大学にて、特別研修会(実地研修を含む)は 24 日(日)東京簡易保険会館(五反田ゆうばうと)にて開催予定。企画運営委員会及び実行委員会名簿が承認された。事務局は東京慈恵会医科大学環境保健医学講座及び(株)ヒューマン・リサーチ。
4. 選挙管理委員は、山口直人(委員長)、伊藤岩美、稻垣弘文、加地正伸、照屋浩司、新津谷真人、井上和男、今井常彦、内山寛子、神保恵子、鈴木英孝、高橋英孝、武林亨、柳澤裕之、山内博の各氏となった。選挙費用として 150 万円が承認された。新選挙方法に変わり、地方会長と代議員の立候補・推薦期日は平成 16 年 7 月 1 日から 8 月 31 日まで。
5. 地方会細則および選挙細則が一部修正のうえ承認された。
6. 第 226 回例会(一泊)・第 48 回見学会(山崎当番幹事)は、平成 16 年 8 月 27 日(金)、28 日(土)埼玉県県民健康センター(さいたま市)にて開催予定。施設見学場所は大正製薬を予定。

7. 第 227 回例会(鈴木英孝当番幹事)は、平成 16 年 12 月 18 日(土)東京ビッグサイトにて開催予定。
8. 第 228 回例会(加藤当番幹事、山口当番幹事)は、平成 17 年 1 月 29 日(土)弥生記念会館にて開催予定。
9. 平成 17 年度例会は、第 229 回は千葉幹事(順天堂大)、第 230 回(一泊)・第 49 回見学会は小山幹事(群馬県)、第 231 回は廣幹事(こうかん会鶴見保健センター)が担当することが承認された。
10. 関東産業医部会研修会は、平成 16 年 9 月開催予定。
11. 関東産業看護部会産業保健研修会は、平成 16 年 7 月 10 日(土)、7 月 16 日(金)、9 月 11 日(土)、9 月 17 日(金)東京産業保健推進センターにて開催予定。
12. 関東産業衛生技術部会研修会は平成 16 年 6 月、9 月、11 月、平成 17 年 2 月開催予定。
13. 関東地方会ニュース 11 号は、平成 17 年 1 月発刊予定。

平成 16 年度総会報告

鈴木勇司 (慈恵医大)

1. 議長として角田透杏林大学医学部教授が選出された。
2. 平成 15 年度事業報告および決算報告の各案が承認された。
3. 会計監査報告が 4 月 26 日に和田攻監事と埋忠洋一監事により監査が行われ、適切な会計処理がなされていることが埋忠洋一監事より報告された。
4. 平成 16 年度事業計画(案)および予算(案)が承認された。
5. 第 78 回日本産業衛生学会企画運営・実行委員名簿が承認された。
6. 関東地方会細則および選挙細則が一部修正のうえ承認された。



関東地方会長及び代議員の選挙について

関東地方会選挙管理委員長 山口 直人

社団法人日本産業衛生学会定款 13 条、代議員選任規程、関東地方会細則および関東地方会選挙細則に基づき、地方会長の立候補及び代議員の立候補または推薦の受付をいたします。

選挙に関する詳細は、選挙管理委員会からの選挙に関するお知らせと機関誌の3号及び4号を熟読してください。

尚、立候補者または推薦者は選挙権および被選挙権があることを確認して下さい。会員歴が2年以上あり、平成15年度及び平成16年度の会費を平成16年7月31日までに納入している関東地方会所属の正会員です。

公示日：平成16年7月1日

立候補または推薦の締め切り日：平成16年8月31日（当日消印有効）

立候補及び推薦用紙送付先：〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1

東京女子医科大学 衛生学公衆衛生学第II内

日本産業衛生学会関東地方会選挙管理委員長 山口直人宛

第78回日本産業衛生学会(第2報)

—産業構造の変化と産業保健のあり方—

企画運営委員長 清水英佑

会期：学会 2005年4月20日(水)～23日(土)、特別研修会 2005年4月24日(日)

会場：東京プリンスホテル・東京慈恵会医科大学・東京簡易保険会館(五反田ゆうばうと)

演題申込・原稿締切日：2004年12月25日(土)

各種行事予定：

4月20日(水)総会・自由集会

4月21日(木)シンポジウム・特別講演・一般口演・ポスター発表・自由集会

4月22日(金)シンポジウム・特別講演・学会賞講演・一般口演・ポスター発表・懇親会

4月23日(土)シンポジウム・奨励賞講演・一般口演・ポスター発表・自由集会

4月24日(日)特別研修会

企画運営委員会・実行委員会名簿

《企画運営委員長》

清水 英佑

《顧 問》

相澤好治・安達元明・荒記俊一・石渡弘一・大前和幸・唐澤祥人・小泉明・河野啓子・小木和孝・櫻井治彦・鈴木庄亮・高田易・中明賢二・能川浩二・野崎貞彦・野見山一生・浜口伝博・藤田雄三・村上正孝・和田攻

《企画運営委員》

伊藤昭好・伊藤岩美・稻葉裕・岩間章介・上畑鉄之丞・埋忠洋一・大井田隆・大野秀樹・大道正義・岡崎勲・小川康恭・沖野哲郎・加地正伸・勝村俊仁・加藤登紀子・門脇武博・川田智之・岸田孝弥・河野慶三・神山宣彦・小林廉毅・五味秀穂・小山洋・酒井一博・櫻井裕・桜井秀也・下光輝一・城内博・神保恵子・高島豊・高野健人・谷川武・田村静夫・津久井一平・角田透・朽久保修・中館俊夫・中村好一・名古屋俊士・花岡知之・藤村伸・前原直樹・松井寿夫・松崎一葉・丸井英二・三好裕司・武藤孝司・矢野栄二・山口直人・吉田勝美

《実行委員》

荒木葉子・飯島美世子・石原陽子・稻垣弘文・井上和男・今井常彦・宇佐見隆廣・内山寛子・大久保靖司・太田久吉・大山典明・小笠原牧子・門倉真人・加部勇・川名ヤヨ子・工藤光弘・小西淑人・小峰慎吾・近藤正樹・斎藤知子・坂田晃一・佐々木司・坂井公・澤田晋一・鈴木英孝・須藤英仁・高橋英孝・武田桂子・武林亨・田中三千代・田中茂・田中克俊・千葉百子・照屋浩司・富山明子・中尾睦宏・中村賢・新津谷真人・能勢俊一・野田治代・橋本真一・原邦夫・原美佳子・原谷隆史・久内徹・久永直見・平田衛・廣尚典・福本正勝・藤田春洋・前田節雄・桝元武・松田敏裕・三宅健夫・三浦善憲・宮本俊明・三輪祐一・森崎美奈子・柳澤裕之・山内博・山崎博・山野優子・山村邦男・渡辺哲・和田高士

連絡先：〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8

東京慈恵会医科大学環境保健医学講座学会事務局：鈴木勇司(事務局長)、縣俊彦、宮越雄一

TEL：03-3433-1111(内線2270) FAX：03-3431-6029

E-mail：sanei78@jikei.ac.jp ホームページ：<http://plaza.umin.ac.jp/sanei78>

研究室紹介

北里大学医学部衛生学公衆衛生学

相澤好治



教室制を取らない本学では衛生学公衆衛生学単位と称し、教育研究は渾然一体となって行われてきた。衛生学は高田勗教授の後を引き継いで、筆者が平成6年から担当し、公衆衛生学は植松稔教授、一杉

正治教授の後、佐藤敏彦助教授が担当している。平成16年4月から角田正史助教授が衛生学に加わったほか、本地方会幹事の新津谷真人講師、遠乗秀樹助手、工藤雄一朗助手、渡邊光康助手(留学中)が常勤している。幸い博士課程8人、修士課程2人の大学院生と研究生1人が修学しており、若い熱気に包まれている(写真)。

研究は衛生学が産業衛生・環境衛生を、公衆衛生学は疫学を主題としている。産業衛生の中でも特に粉じんの健康影響をテーマとし、細胞や動物レベルでの粒子状物質や繊維状物質の影響を磁界測定という独特の手法で研究している。加えてここ数年は、シックハウス症候群や化学物質過敏症と言われる状態の病態解明にも努めている。公衆衛生学では、WHOから着任した佐藤助教授の指導で、EBMや疾病負担の疫学研究が行われている。

本単位では、東京電機大学工学部の小谷誠教授と20年にわたり共同研究をしているが、最近研究委員長として、学部をあげて青山学院大学理工学部と交流を始めている。また何か新しい出会いがあることを期待する今日この頃である。



会員の声

スウェーデンに滞在してー

諏訪園 靖(千葉大医)

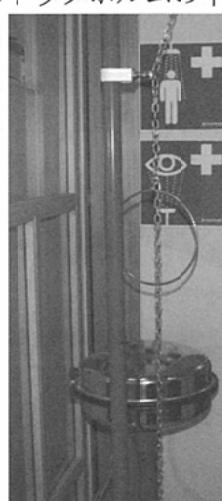


昨年11月から、客員研究員としてカロリンスカ研究所、Unit of Metals and HealthのVahter教授の下で重金属の健康影響について研究をしています。研究所はストックホルム北西の閑静で自然に恵まれた環境にあり、医学研究だけではなく、医学学生への教育も行われています。

研究所の労働環境でまず特徴的なことは、女性が多い事で、私の所属する講座では8割以上が女性です。今年は研究所のトップ(Vice chancellor)が替わりましたが、この方も女性です。研究所の「労働環境に関するポリシー」でも女性と男性との間の平等について宣言されており、女性がごく自然に働くことができる環境が整備されています。また、夏期休暇は一ヶ月くらいと長く、海外や郊外の別荘に滞在して過ごすようです。さらに、クリスマスにも長期休暇を取る人が多いのですが、業務では、集中して質の高い成果を上げており、仕事と私生活のバランスの良さに驚かされます。

安全衛生に関しては、設備、保護具等についての法令を遵守しており、緊急用洗眼器とシャワー(写真)等では、目が見えない事態となってもこれらが使用できるようになるまで教育されます。その他、近年話題の喫煙問題に関しては、建物内は完全禁煙で喫煙は屋外に限られています。研究所の喫煙者は少ないのですが、ストックホルムの中心街では、ビルの入り口に喫煙者が集まっているのを見かけます。

他にも興味深い事はありますが、紙面が尽きました。海外に生活拠点を移す事で、その労働環境をより深く知ることができ、本当に良かったと思っています。この経験を今後、産業保健活動研究に生かしていくと考えています。



奨励賞おめでとうございます。

産業保健実践活動報告(第 8 回)

こうかん会鶴見保健センター

廣 尚典(こうかん会鶴見保健センター)



当センターは、JFE エンジニアリング(株)鶴見事業所の構内に所在し、同社および近隣のグループ会社事業所の産業保健業務全般を行っています。それらの業種はさまざまです、全対象従業員数はおよそ

6,300 名になります。建屋内で 1 年を通していわゆる循環棚卸し方式の健診を行っており、診療部門も併設しています。常勤スタッフは総勢 19 名で、医師 3 名(うち 1 名診療担当)、保健師 5 名、臨床検査技師 2 名、放射線技師 2 名、薬剤師 1 名、事務担当 3 名、健診補助 3 名です。平成 15 年 4 月の組織の再編により、現在の名称となりましたが、旧日本钢管病院鶴見保健センターの設立は昭和 58 年で、約 21 年の歴史を持つことになります。

各社とはそれぞれ年間契約を結んで産業保健活動を進めています。日頃から多くの職場の情報を収集することに努めるとともに、契約時および年度末などの時期には、担当者との意見交換に時間をかけ、各社の実態、ニーズに合ったサービスの提供ができるように心がけています。また、利用者の満足度を高める取り組みとして、「サービスのヒヤリハット報告」活動を続けています。

業種、有害業務の有無などによって、各社ごとに取り組むべき項目の優先順位は異なりますが、最近は全体的にメンタルヘルスの問題が大きくなり、各社からの支援の要請も高まっています。当センターでは、以前からメンタルヘルス対策に関する活動として、教育研修、健診における構造化面接の導入、小冊子、リーフレット類の作成などをやってきましたが、それらの内容を随時刷新し、より現状に沿ったものに調整する工夫が必要となっています。

現在の悩みとしては、業務に追われて、スタッフが事例検討やミーティングなどのまとまった自己研鑽の時間をとりにくくなっていることがあげられます。

産業保健実践活動報告(第 9 回)

有酸素能力の維持向上のために

澤田 亨(東京ガス健康開発センター)



近年、生活環境および職場環境の変化とともに労働者の体力の低下が問題になっています。身体活動量の低下にともない筋力や有酸素能力が低下し、さまざまな生活習慣病の原因となっています。当

社では健康と密接な関係があると言われている「有酸素能力」の維持向上のための取り組みを開拓していますので紹介させていただきます。

心肺機能測定：健康診断の実施日に「心肺機能測定」として有酸素能力を測定しています。測定には自転車エルゴメータ(固定式自転車)を用い、各 4 分間の負荷を 2 段階負荷する方法を採用しています。結果は「心肺機能年齢」として年齢に換算して受診者にフィードバックしています。年齢換算することによって自分自身の体力レベルが平均と比較してどの位かわかりやすくしています。体力レベルを測定値としてフィードバックすることによって有酸素能力の維持向上のための動機付けを図っています。

歩数計測：健康診断のお知らせ通知と一緒に歩数計を配布し、健康診断受診日までに任意の 1 日の歩数を計測して健康診断時に報告してもらっています。健康診断や心肺機能測定に先立って歩数を計測することにより、健診結果と身体活動量の関係について考えてもらうきっかけになればと期待しています。

健康推進賞：健康づくり活動に積極的に取り組んだ職場を表彰する制度です。表彰によってその職場の努力や工夫に敬意を表するとともに、受賞職場の取り組み内容を他の職場に紹介することによって会社全体の取り組みレベルが向上することを期待しています。

身体活動量が不足する傾向にある現代社会において、労働者の体力の維持向上をめざした支援活動を展開することは労働者にとっても会社にとっても重要であると考え、今後も積極的に活動を開拓していくことを考えています。

3部会フリーページ

産業医部会の紹介

関東産業医部会幹事

三好裕司（明治安田生命）

1. 産業医部会とは

産業医部会は日本産業衛生学会の部会として、産業医活動の充実、発展をはかることにより、産業医学の進歩に貢献することを目的に、1992 年に設置されました。部会員は、日本産業衛生学会会員のうち、本部会の目的に賛同し、所定の手続きを終えた者 538 名で構成されています。

2. 主な事業

春の産業衛生学会に続く大きな事業として、産業看護部会と共に、秋に日本産業医産業看護全国協議会を開き、産業衛生の実務的な研究発表、教育、情報交換の場を設けています。2001 年秋は東京で開催しました。今年は 10 月 28 日(木)から 30 日(土)に大阪で開催予定です。また、産業衛生のあらゆる分野とのネットワークを緊密にするため、平成 15 年度に産業衛生技術部会と合同セミナーを開催しました。

今春の産業衛生学会では、産業医のための、産業現場からの産業医活動に関する報告をもとに、産業医活動・産業衛生について討論するフォーラムを開催しました。産業医活動の方向性を求める有意義な企画となり、来年以降の学会でも同様の企画を継続したいと考えています。

産業医部会の重要な使命として、産業医活動に関する研修と教育があります。いろいろな立場の産業医の育成・専門性の向上を目指し、1)認定産業医資格取得ならびに更新を目指した研修会、2)全国各地でリーダーシップを發揮すべき産業医のための研修、3)高度な産業医活動を行うためのプロフェッショナルコース、4)産業医だけでなく、産業看護職、人事・労務、産業保健実務担当者まで幅広い者を対象とした研修会を実施しています。

産業医部会は地方レベルでの活動の強化もはかっています。関東では関東地方会と産業医部会の連携を強めるため、関東産業医部会として、10 名の世話人で協議のうえ、テーマ性を持った関東産業医部会産業医研修会を年 1 回開催しています。今年は 9 月に実施予定です。全国レベルの研修会も関東産業医部会でお世話をすることが多く、関東地方会員の皆様にはお役に立てていると思います。

3. 入会のご案内

産業医部会会員数は 538 名、そのうち関東地方会員は 164 名です。まだ入会されていない地方会員も多いので、お互いの情報の共有化と産業医活動のスキルアップを目指して、ぜひ産業医部会にご入会をお願いいたします。

入会希望者は下記事務局へご連絡ください。入会申込書等をお送りいたします。

(社) 日本産業衛生学会産業医部会事務局

〒807-8555

福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘 1-1

産業医科大学産業医実務研修センター内

TEL : 093-691-7171 FAX : 093-603-2155



おめでとうございます

日本産業衛生学会名誉会員

莊司榮徳先生(労働衛生コンサルタント莊司事務所)

日本産業衛生学会功労賞

輿貴美子先生(産業医学総合研究所客員研究員・
神奈川産業保健推進センター産業保健特別相談員)

鎌田登志子先生((株)スピリス)

野田一雄先生(野田労働衛生コンサルタント事務所)

日本産業衛生学会奨励賞

廣尚典先生(こうかん会鶴見保健センター)

澤田亨先生(東京ガス健康開発センター)

学会等開催予定

第 226 回関東地方会例会(一泊)・第 48 回見学会

日時: 2004 年 8 月 27 日(金)~28 日(土)

会場: 埼玉県県民健康センター

見学会: 大正製薬

当番幹事: 山崎博(埼玉県医師会)

第 227 回関東地方会例会

日時: 2004 年 12 月 18 日(土)

会場: 東京ビッグサイト

当番幹事: 鈴木英孝(エクソンモービル)

関東産業看護部会第 5 回産業保健研修会

日時: 2004 年 7 月 10 日(土)、7 月 16 日(金)

9 月 11 日(土)、9 月 17 日(金)

会場: 東京産業保健推進センター

会長: 神保恵子(NTT 首都圏センタ)

第6回ICOH医療従事者のための産業保健国際会議

日時: 2004年10月7日(木)~10日(日)

会場: 産業医科大学ラマツィーニホール

組織委員長: 大久保利晃(産業医科大学学長)

<http://www.hcw2004uoeh.jp/>

第 10 回産業衛生技術部会大会

日時: 2004 年 10 月 27 日(水)

会場: インテックス大阪 6 号館 F 会議室

実行委員長: 河合俊夫(中災防大阪労働衛生総合センター)

第 14 回日本産業衛生学会産業医・産業看護全国協議会

日時: 2004 年 10 月 28 日(木)~30 日(土)

会場: 大阪国際交流センター

企画運営委員長: 岡田章(丸紅大阪健康開発センター)

第 52 回日本職業・災害医学会学術大会

日時: 2004 年 11 月 11 日(木)~12 日(金)

会場: 岡山コンベンションセンター

会長: 吉良尚平(岡山大大学院公衆衛生学分野教授)

中小企業安全衛生研究会第 38 回全国集会

日時: 2004 年 11 月 12 日(金) 13:00~16:30

会場: 名古屋大学医学部鶴友会館

世話人: 柴田英治(愛知医大医学部衛生学助教授)

国際シンポジウム

中小企業およびインフォーマルセクタにおける産業保健

日時: 2004 年 11 月 12 日(金)~15 日(月)

会場: 名古屋国際会議場

会長: 井谷徹(名古屋市立大医学部労働・生活・環境保健分野教授)

第 12 回日本産業ストレス学会

日時: 2004 年 11 月 26 日(金)~27 日(土)

会場: 横浜市開港記念会館

会長: 岡崎勲(東海大医学部地域環境保健系地域保健部門教授)

編集後記

編集委員の一員となつてもう 2 年が経過しました。当初は全く不慣れな編集作業でしたが、他の先生方の強力なサポートをいただいて、最近では少しは寄与できてきたかと感じます。編集作業は地味な物と思われますが、私にとっては他の先生方の幅広い話題に接することができて楽しみな時間です。限られた紙面で何をどのように伝えていいかいつも悩むところですが、同時にそこが知恵をしづるところです。

こうして送り出したニュースがどう読まれているか気になります。ともすれば一方通行になりますが、読者の方々から御意見や御希望をお寄せいただけましたら大変役立ちますので、どうか宜しく御願い申しあげます。(樹元)

昨年 10 月まで、編集委員に産業衛生技術部会に関する委員が一名のみということもあり、三部会の構成バランスをとるということから、委員を拝命致しました。何もわからぬままに編集委員会に加わらせて頂き、編集見習いとして修行中です。

編集委員の先生方は印刷用語を駆使し、テキパキと編集作業を進めておられます。ただただ感心するばかりです。期限内に原稿が集まることも重要であることもわかりました。

地方会ニュースは地方会活動の報告、労働安全衛生に関する情報提供、会員相互の意見交換等の場でもあります。たくさんのご投稿をお待ちしております。

新参者ですが今後とも宜しくお願いします。
(今井)

編集委員名簿

◎伊藤岩美、稻垣弘文、今井常彦、宇佐見隆廣、

○大久保靖司、沖野哲郎、川名ヤヨ子、小峰慎吾、

田中三千代、原美佳子、久内徹、廣尚典、

樹元武、△宮越雄一、宮本俊明、山野優子

◎編集委員長、○副編集委員長、△事務局